

和合

No.128
2019.5.1

題字 三浦修次



主な掲載記事

和合探訪	2	畑にこんにちは	6
はやぐおっきぐなれの～!	3	季節の郷土料理	6
よつぱっこ通信	4	人生100年時代	7
わたしが描く和合の里	5	わごう駐在所	7
わたしから見た和合の里	5	和合の里INFORMATION	8

和合探訪

和合のルーツ
ここにあり！

本小野方 編

◆参考資料

『余目町史』 余目町 発行
『十六合史』

十六合地区総合振興協議会 発行
『かたち 匠 高梨四郎』
社団法人山形県建築士会鶴岡田川支部 発行

村のはじまり

本小野方は、元和8年(1622年)に北楯大堰の開削にともなう新田開発のひとつとして誕生しました。開村の中心となったのは、越後国(現在の新潟県)出身の庄内藩士 鈴木久右衛門という人物です。



◆村高の変化

開村から間もない寛永元年(1624年)の記録によれば、本小野方の村高は89石8斗6升1合(約13,500Kg)でしたが、約50年後の寛文9年(1669年)には、256石9斗3升24合(約38,500Kg)に増えています。

しかし、村民ひとり当たりの耕地面積はそれほど増加せず、寛文のころには1町歩以上の所有者が11名いたのが、6名に減り、他町村の人々が所有するようになりました。

西小野方村との関わりから見る本小野方

本小野方村を開発した鈴木久右衛門は、現在二小学区にある西小野方の開村にも携わっており、余目町史には、本小野方村の開発の褒美として西小野方村の開発を許可されたと記されています。他にも西小野方には、本小野方村から移住したという伝承を持つ家が数戸あり、前述したように本小野方には開拓する耕地が不足していたために、新たな耕地を求め西小野方へ移住したのではないのでしょうか。

◆村名の由来

本小野方は、開村当時は小野方村と呼ばれており、その起源は、狩川の小野里から移住したからとも伝えられていますが、確かなことはわかっていません。しかし、なぜ小野方村から本小野方になったのかについては、先に述べたように本小野方と西小野方は同じ人物が開村に携わっており、先に開発した村を本小野方、その西方にあるため西小野方と呼ぶようにしたと町史に記述があります。

◆三上神社

祭神は倉稲魂命。大正10年(1921年)に300年祭が行われていることから開村まもなくの創建だと思われます。明治4年(1871年)の記録によると、西小野方村は本小野方の三上神社を名目的な本社としていたようです。

著名人 PICK UP!

- 明治35年 本小野方で建築業 高橋茂吉の四男として誕生。
- 大正5年 十六合尋常高等小学校高等科を卒業後、翌年から家業の建築業に従事。
- 昭和2年 廿六木の高梨家の婿養子になる。
- 昭和22年 旧十六合村の村長に当選。
- 昭和26年 県議会議員に当選。土木、衛生、総務各委員長をはじめ、町村合併促進特別委員長、電源開発特別委員長等を歴任。
- 昭和29年 県建築士会会長に就任。昭和30年には建設職業訓練所を開設し、後進の育成に努め、昭和41年には日本建築士会連合会理事を務めるなど、業界振興に尽力した。
- 昭和33年 旧余目町長に当選。
- 昭和35年 黄綬褒章を受章。昭和47年には勲五等双光旭日章を受章。
- 昭和58年 旧余目町名誉町民に推挙され、平成2年には正六位を受位。



高梨 四郎

(明治35年3月11日
～平成2年3月9日)



人生100年時代

～笑う門には福来たる！～

庄内町保健福祉課長 鈴木 和智

国の「ニッポン一億総活躍プラン」の中には、子ども・障がい者・高齢者などすべての人々が、受け手、支え手に分かれることなく支え合い、役割を持って活躍できる「地域共生社会の実現」が掲げられています。

日本は世界一の長寿国となりました。人生100年時代がそこまで来ています。これまでの2025年（団塊の世代全ての方が65歳以上になる）に向けた取り組みに加え、2040年（団塊ジュニア世代が高齢者となる）を見据え、誰もがより長く元気に活躍できる地域社会を目指すこととされました。

そのためには、社会参加、運動・栄養など、日々の健康に対する一人ひとりの取り組みが重要となります。

庄内町では、今年度も「各種健診」や「元気で長寿健康教室」、「いきいき100歳体操」等を中心にした通いの場の立ち上げ支援など健康づくり・介護予防の支援を行っておりますので、ご希望がある集落はご相談ください。

最後に、「笑顔」は健康の基本。笑う門には福来たる！和合の里にたくさんの笑顔が広がることを願っております。

問い合わせ先

◆ 健康推進係（余目保健センター） ☎43-0817 ◆ 健康福祉係（立川庁舎） ☎56-3392

第4学区内における 犯罪発生状況及び 交通事故発生状況

わごう駐在所

庄内警察署
佐藤 正人
（第四学区担当）



平成30年は犯罪・事故ともに平成29年より減少しています。犯罪に関しては、特殊詐欺の被害はありませんが、最終通告等のハガキやメール等は後を絶ちません。身に覚えのないものには記載の連絡先に連絡は絶対にしない、判断がつかない場合は警察に相談してください。

事故に関しては、国道など大きな道路での発生が多いですが、地区内道路での「慣れ」が原因の事故も発生しています。日頃から気をつけて犯罪や事故に遭わないようにしましょう。

■ 犯罪発生状況（平成30年1月1日～12月31日まで）

番号	発生月日	発生場所	罪名	検挙状況
1	11月16日	廻館字館舎地内	詐欺（特殊詐欺ではありません）	捜査中

■ 人身事故発生状況（平成30年1月1日～12月31日まで）

番号	発生月日	発生場所	事故原因	形態	被害程度
1	3月31日	南野新田字西割地内町道上	右方確認不十分	軽貨×軽貨	軽傷
2	4月22日	沢新田字錆地内町道上	ブレーキ操作不適	単独	軽傷
3	6月9日	古関字古館地内町道上	左方確認不十分	軽×軽	軽傷

■ 物損事故発生状況（平成30年1月1日～12月31日まで）

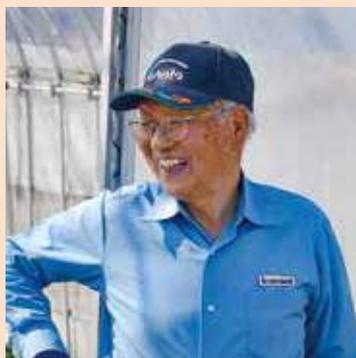
認知件数	発生場所
30件	廻館9件、南野5件、吉方5件、前田野目2件、返吉2件、主殿新田1件 古関1件、本小野方1件、南野1件、南野新田1件、沢新田1件、西袋1件

畑にこんにちは!

日下部 幹夫さん(前田野目)

桜の便りを今か今かと待ちわびていた4月上旬。朝から気持ちの良い快晴となったこの日、お邪魔したのは日下部幹夫さんのハウスです。

まだ風が冷たく感じる日でしたが、ハウスの中は暑いくらいのポカポカ陽気に包まれていました。



さて、ハウスに入って最初に目に付いたのは、プランターに植えられた立派なイチゴです。(左写真) この『和合』が発行になる頃には、きっと大きい真っ赤なイチゴが実っているのではないのでしょうか。そのほかにも大根や白菜、

ブロッコリーなど冬の野菜の名残もあり、この日は天気良かったのでちょうど片付けをしようと思っていたところだったそうです。

また、ハウスの一角には青々としたほうれん草も顔を出していました。取材現場に一緒にいた某氏は「俺はほうれん草とは相性が悪い」などと言っておりましたが、幹夫さんは「ほうれん草は、冷蔵庫に入れて芽を出すと100%おがる!」とアドバイスをおくっていました。そのような知識は『現代農業』から得ているそうです。



これからどんな野菜を植えるのか尋ねると、じゃがいもや枝豆(湯あがり娘、秘伝等)、人参、ごぼうなどを挙げてくれました。



5月2日の八十八夜を過ぎると種は何を蒔いても大丈夫と昔から言われているようで、これからが畑仕事の本番を迎えます。頑張って育てた野菜を、近所のお母さん方と贈り合うのが楽しみだとお話してくださいました。

【▲取材中のひとコマ。幹夫さんの“笑顔”が素敵でした】

季節の郷土料理



草もち

◆材料(4人分)

もち米……………4合
よもぎ……………75g
あん……………適量
きな粉……………適量
重層……………少々

◆作り方

- 1 もち米はよく洗い、水に浸して一晩おく。
- 2 よもぎはたっぷりの湯に、重層を少々入れて柔らかく茹で、ざるに上げ、水を切る。
- 3 2を水に5分ほどさらし、軽く水気を切り、細かく刻んでからしっかり絞る。
- 4 もち米を蒸かし器に入れ、蒸かす。
- 5 4が蒸かしあがったら、餅つき機に移して、3のよもぎをパラパラにほぐしてあげて、つく。(よもぎがよく混ざるまで)
- 6 つきあがったら、バットにきな粉を入れて餅を移し、適当にちぎって丸くし、広げた中にあんを入れ包む。

◇草餅正月

春作業の田の耕起期の休日。4月中旬から5月の中旬まで、ヨモギが芽吹く時期に農作業の中休みに村の区長から正月(休み)をもらって草餅を食べる休日である。

草餅は近所や親戚衆に重箱で配って親睦を深めてきた。草餅正月も昔の季節的な農作業の臨時休業だった。

出典：『つぐてみねが 遊佐ごっつお』
『余目町の民俗 年中行事』

パパとママにインタビュー

はやぐおつきぐなれの～!

Q1 名前の由来は? Q2 今一番の興味やハマってることは? Q3 最近記憶に残ったエピソードは?
Q4 パパママの失敗談(子育てあるある) Q5 パパママからのメッセージ

えま
門脇 永茉ちゃん(前田野目)

平成30年4月26日生まれ
パパ: 巧(こう) ママ: 由香里(ゆかり)



- 1 かわいらしく、誠実で裏表のない素直な子になってほしいという願いをこめて…。
- 2 音の出るおもちゃや絵本に興味があります。ハマっていることは引き出しの中に入っているものを出したり、入れたりすることです。



- 3 つかまらずに1人で誇らしげな顔をして立っていたこと。
- 4 目を離したすきに、バッグや財布の中身を出されていたこと。
- 5 どんどんできるようになることも増え、日々の成長が楽しみです。お姉ちゃんと仲良く、これからも元気にすくすく育ててね!!

ちよ
渡部 千代ちゃん(吉方)

平成30年5月18日生まれ
パパ: 千寛(ちひろ) ママ: 恵美子(えみこ)



- 3 少し目を離したすきに、部屋がティッシュだらけに!! ありそうでなかなかなかった状態に笑ってしまいました。今しかできないことを満喫しています。

- 1 和風でかわいいと思い、父親から1文字もらって『千代に八千代に』のように、長い時間を強くたくましく生きてほしいです。
- 2 食べること!! 食べたくて食べたくてという感じです。上手に食べてくれてとてもありがたいのですが、何でもかんでも口に運んでしまいます。『ちょっと待った!!』何度あったかわかりません。



- 4 離乳食をあげながらの晩ごはん。思うより結構しっかり食べていること。お風呂に入るため、オムツを取った瞬間…。
- 5 もうすぐ1歳の誕生日♪あっという間に大きくなったね。自分の足で歩き始めるのが楽しみです。これからもみんなと明るく元気に楽しく過ごそうね♡



🍀 今年度もスタートしました！



今年度は、新入園児が男の子11名、女の子11名、計22名が入園し、全園児41名のあふれる笑顔で、第四幼稚園がスタートしました。

入園式では、一人ひとりが名前を呼ばれて、「はい！」と元気に返事ができました。年長さんは、仲良しペアの新入園児のお友達に、手作りしたねこのペンダントをプレゼントし、「これから仲良く遊ぼうね」と素敵な優しい合奏♪も聞かせてくれました。

昨年度までピンクのバッチをつけていた年長組さんも、水色のバッチがよく似合う素敵な大きい組さんになりました。自分たちで考えて、意欲的に、園の生活を作りあげていってほしいという願いのもと、大きい組さんは、自分のカバンかけのマークを、自分で考えて作りました。そして、自分の好きなところに貼ります。『僕のマーク、鳥にする！』『ねこもいいかなー？』『バナナにする！』と、思い思いに考えて、楽しんでいた子ども達です。

これからの活動や遊びの場面でも、自分たちで頭を寄せ合って、考えること、失敗してもいいから、やってみることを大事にしていきたいなあと思っています。大きい組さん！任せたよ！！

🍀 せんせいあのね

給食で、きくらげが入っているお汁ができました。

先生 「きくらげって言うんだよー」

「木に生えているんだよー」

Mちゃん 「ふーん」

先生 「こりこりしておいしいね！」

Mちゃん 「今度、加茂水族館に行って調べてくるー！」

先生 「!!…いると、いいね…？」

木って言ったのに…。聞いてなかったなー…笑



わたしが描く和合の里

ぼくは、明るい子どもが多くて、農業がさかんな和合の里にしたいです。阿部かめじさんのような、おいしい米や野菜がとれるような、空気がきれいで、ずっといつまでもあいさつが自まんの元気いっぱい子ども達がたくさんいる和合の里でいてほしいです。



阿部 ^{とうま}斗真【大真木】

誰でも安心に暮らし、特に問題もなく、平和におだやかに暮らせる街にしたいし、自然も残したいです。地域の行事にも参加して、地域の人と交流をしていきたいです。



大人になってからも、なるべくこの地域に残りたいし、地域をもっと良くしていき、人口をもっと増やしたいです。
安藤 ^{りょうま}良馬【小出新田】

私は、和合の里が、豊かで田んぼが自まんな場所にしたいです。理由は、庄内町は田んぼが多いし、阿部かめじが生まれた里だからです。

もっと豊にしていくには、ゴミ拾いなど、ボランティアをしていくことです。私たちもボランティアを心がけたいとおもいました。



齋藤 ^{まお}真央【南興屋】

私は、学校の一人ひとりが仲間はずれやいじめをなくせる和合の里をつかっていきたいです。高学年なので、自分達がいじめをしないようにしなければなりません。

二つ目はあいさつです。あいさつが自まんなので、地域の人や、家族にしっかりあいさつをしたいなと思います。



門脇 ^{みなみ}南【連枝】

わたしから見た和合の里



前庄内町立余目第四小学校長 齋藤 祐子

本当に本当に感謝の日々でした。ありがとうございました。

和合の里びとの皆様に
本当に本当に感謝の日々
でした。ありがとうございました。

ます。皆様のよう

く、時には厳しく育てて
いただき、きつとたくま
しい和合の里びとになり

余目第四小学校の子ども達は、将来の「和合の里びと」の姿を日々学んでいるのだと思います。たくさん種をまいていただき、あたたかく、時には厳しく育てて

子ども達のためにと、労を惜しまず学校に協力してくださる和合の里びと。

あたたかな声と笑顔で読み聞かせをしてくださる和合の里びと。

酷暑の日も、吹雪の日も、子どもと共に歩いてくださる和合の里びと。

学校のうさぎのために、そつと野菜を置いていってくださる和合の里びと。

放課後子ども教室で、思い切り遊ぶ子ども達に、大きな声で、そして笑顔で関わってくださる和合の里びと。

子ども達から見える和合の里は、将来の「なりたい和合の里びと」の住むところ。下校の途中に大きな声で、「こんにちは。そのネギください。」と挨拶する子どもに、「お帰り、いいよ。お母さんさ持っていけ。」と返してくださる和合の里びと。

子ども見守り隊 顔合わせ会と登校班結成式が行われました！

4月9日（火）第四小学校の体育館で、子ども見守り隊と小学生との顔合わせ会と、登校班結成式が行われました。

顔合わせ会では、地域の見守り隊と小学生が対面になって紹介とあいさつが行われ、阿部斗真さん（6年/大真木）が全校児童を代表して「毎日見守ってくれてありがとうございます。見守り隊のみなさんのおかげで、毎日安全に学校に行くことができます。」とあいさつしました。



登校班結成式では、各登校班の班長が紹介され、班長を代表して土田結葉さん（6年/廻館）が、校長先生から登校班の班旗を受け取り「登校班旗を持つという責任をもって、毎日安全にみんなを登校させます。」とあいさつしました。

亀ノ尾の里資料館 企画展



これまで庄内町歴史民俗資料館に展示されていた石器、砂金掘りの資料、山しごとの道具、さしこ、さいの神等を展示しています。和合の里とはちょっと違う山所の歴史を知ることができます。

第四学区老人クラブ連絡協議会総会が開催されました！

4月10日（水）、余目第四公民館多目的ホールで、平成31年度通常総会が開催され、事業計画や予算が決定されました。また、役員改選では、理事会で協議された次の方々が承認されました。

- ◆新役員 会長 齋藤 弘一（前田野目）
- 副会長 秋庭 勝雄（南野）、 関井 満（廻館）
- 監事 石崎 文志（廻館）、 本間 俊男（西袋）

歴史と文化の薫りただよう和合の里 決定！

4月20日（土）、余目第四公民館にて和合の里を創る会の総会が行われ、今年度の事業計画や予算等のほか、『和合の里振興計画』や昨年の大雨を教訓とした『早期避難宣言』についても審議され、原案のとおり可決されました。和合の里振興計画では以下の目標が掲げられました。

将来像 「歴史と文化の薫りただよう和合の里」

基本目標 「安心・安全でみんながつながり笑顔で暮らす和合の里」

分野別目標

- 自治 「ひとり一人が地域に愛着の持てる和合の里」
- 環境福祉 「地域の支え合いで楽しく暮らす和合の里」
- 産業 「地域資源を活かしてみんながうるおう和合の里」
- 教育 「子どもから高齢者まで共に学ぶ和合の里」

編集後記

近未来の和合の里はどんな里になるでしょうか？

さて、和合の里振興計画が策定され、いよいよ本格始動をむかえます。

計画に沿って、早速今年度から新たに立ち上がる事業や、福祉の面でこれから考えていかなければならない問題も様々あります。少しでも目標とする"里"に近づけていきたいものです。